

研究評価委員会分科会各委員からの評価結果に対する対応について(事後評価)

課題名「携帯型情報端末による現地調査支援システムの開発」

1. 主な所見

- ・所見 : 研究の達成度について
現時点における開発システムの「有用性」の限界、問題点を明らかにしたことを含め、当初の研究目的は概ね達成できたものと評価できる。

- ・所見 : この研究を建築研究所が実施する意義について
GIS を都市計画や被災度調査などの公的諸業務に活かそうという大きな構図のなかでの研究開発であり、基礎的な技術開発でもあることから、個々の自治体や民間サイドでは対応が困難である。建築研究所が実施することは妥当である。

- ・所見 : 研究成果の公表について
開発されたシステムを無償でインターネット上に公開しており、他の機関におけるシステムの活用、成果の検証・発展への可能性を広げた。

- ・所見 : オリジナリティについて
携帯情報端末に着目したことを評価する。
実用となるシステムを開発したことについては評価できるが、研究としては技術的な新味に乏しいきらいがある。

- ・所見 : 成果の検証について
外部機関と連携し、開発されたシステムの実務における検証を企画するべきであった。

- ・所見 : 今後の外部機関との連携について
このシステムの主なユーザーとなるべき自治体などとの連携を深め、システムの改良や活用に関する検討を進めるとともに、わかりやすい形で研究成果の公表に努めるべきである。

- ・所見 : 今後取り組むべき研究課題について
総合的には課題のねらいは今後重要な都市管理手法として確立されていくと思う。データの整備や都市管理に必要な情報システムのあり方情報など、自治体における他の課題についても積極的に取り上げると同時に、将来的には通信機能の活用など IT 技術の進展に応じた展開を図ることがのぞましい。

- ・所見 : 組織的な対応について
研究成果の蓄積・継承や課題終了後の時間が経った時点での評価など、組織的な対応が必要である。

2. 主な所見に対する回答

・所見 , , に対する回答：
評価いただいたことを感謝します。

・所見 に対する回答：
本課題は、安価で広く活用されることが期待できる現地調査支援システムの開発を目的としていることから、実用性を重視し、実績のある安定した手法を用いた。結果として新味に乏しいきらいもあると思われるが、研究目的から止むを得ない点であろうかと考える。

・所見 に対する回答：
本課題は2カ年という限られた期間内での技術開発であることから、十分な検証を行うことができなかった。しかしながら、システムはインターネット上で無償公開しており、研究期間終了後とはなるが、今後、実務面での検証を行っていくことができるものと考えます。

・所見 , に対する回答：
指摘事項については重要な課題として認識。関連する研究課題として平成15年度より「都市計画基礎調査のあり方」を実施しており、その中でご指摘に 대응できるよう努力したい。

・所見 に対する回答：
課題として認識しており、どのような対応が可能であるか検討する必要があると考えている。